

中部圏多部門マクロ計量モデル有識者会議（第1回）の開催について

1. 概要

公益財団法人中部圏社会経済研究所（名古屋市、代表藤井良直）は、

- ①中部圏（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀）経済の先行きについての予測
- ②地域、全国あるいは世界規模で発生するさまざまな事象が中部圏経済や一国経済に与える影響についての定量的分析

を目的として、「中部圏多部門マクロ計量モデル¹」の開発を行ってきた。

このたび、有識者による専門的な見地からモデルに関するご意見・アドバイスを頂戴するため、「中部圏多部門マクロ計量モデル有識者会議（第1回）」（座長 加藤久和明治大学政治経済学部教授）を開催したので、報告する。

2. 中部圏多部門マクロ計量モデル有識者会議（第1回） 議事要旨

日 時：2018年4月25日（水）16:00～17:30

場 所：中部圏社会経済研究所会議室（久屋パークビル 3F）

委員：

加藤 久和座長（明治大学政治経済学部教授）

堤 雅彦委員（一橋大学経済研究所准教授）

井神 忠委員（一般社団法人中部経済連合会調査部担当部長）

小黑 一正委員（法政大学経済学部教授）※欠席

議題：

1. 中部圏多部門マクロ計量モデルの概要について
2. シミュレーション結果について
3. その他

¹ 中部圏多部門マクロ計量モデルは、マクロ計量モデルのなかで県（地域）間の相互関係を産業別に扱っている点が、最大の特徴である。中部圏の9県及び9県を除く全国のマクロ経済について、全要素生産性（TFP）や労働力、資本ストックの変動が供給（生産）面に中長期的に与える影響と、民間消費、設備投資、政府支出、移出入等の需要面が短期的に与える影響の双方を同時に把握できる構造となっている。需要側と供給側が各々自律的に変動する結果生じる需給ギャップの調整は、物価や賃金、金利の変動（価格メカニズム）を通じて行われる。モデルの最大の特徴である「産業別の県（地域）間の相互関係の記述」については、独自のアイデアを導入しており、一橋大学経済研究所堤雅彦先生から監修指導を頂いた。詳細は弊所ホームページ公表の「中部圏多部門マクロ計量モデルのパラメーターとその設定方法について」を参照。